
「 1 + 1 = ? 」

風花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「1 + 1 = ?」

【Nコード】

N 5 4 0 4 M

【作者名】

風花

【あらすじ】

キーンコーンカーンコーン…

「はい。では今日のおさらいをします。

1 + 1 = ?」

ピカピカのランドセルにツンツンにとんがった鉛筆。。。大きな声でみんな一緒に答えた。

「2！」

月日はたち、トキメキもキラメキも少しずつ変わっていく。。。
私の答えも変わっていく。。。。

「1 + 1」は？

1 + 1 = 1 〈幼き恋心〉

「ねえ別れた彼に未練あったりする？」友達の問いかけに「ない！」キツパリ言い切った私。。

「付き合ってる時に精一杯恋愛するから、ダメになっても未練は残らない。でも…あの人と付き合ってたら…どうなったかな？って思い出す人は一人だけいるけどね…」

「俺だよ！俺」

突然の電話で私をご指名した後の第一声。

「???? どちらの俺さんでしょうか？」

「啓吾だよ。啓吾。忘れちゃった？」

一瞬、声もでなかった。忘れる訳がない。

彼は私が初めてお付き合いした人。

二年前、些細な事から別れてしまった。その後は風の便りで新しい彼女が出来たとか別れただとか耳に入ってきたけれども彼の声を聞いたのは二年振りだった。

「…忘れてないけど…どうしたの？元気だった？よく家の電話番号覚えていたね」

次々と質問ばかりが口から飛び出す。交際中彼から電話があったのなんて数える程だったのに、なぜ？今頃になって？

「いや…覚えてたよ。番号。引越したって聞いたからさ、番号変わってなくてよかったよ。」

特に用事があった訳でも何かあった訳でもなく、取り留めのない会話をして電話はきれた。

私も懐かしさだけでいろいろ話はしたが、お互いそれだけだった。

彼からの電話はその一年後にもかかってきた。

「俺だよ！俺」 相変わらずだ。

それから、忘れた頃、彼から電話があるようになった。

高校も卒業し車の免許も持った。なんとなく会おうとなったのもお互い少し大人になった姿を見てみたかったからかもしれない。

彼との初対面は余り良くはなかった。中学校に上がり、他の小学校から来た子と友達になった。その彼女の彼だった。まだ幼かった私には友達に彼がいる事が衝撃的だった。その彼女から彼の不満を聞いた私は付き添ってあげるからちゃんと気持ちを伝えなよと一緒に会う事になったのだ。彼女の話をちゃんと聞かない彼に腹がたち、思わず注意してしまった：

お互いに「なんだコイツ」が第一印象。。。

それからも大した交流はなかったように思うのだが、いつのまにやらお互い気になる存在になっていった。

友達の彼を自分のものにしたなんて想いもなかったのだが、私の転校が決まった時に、思い出がほしくて映画に誘った。彼は当時野球部でレギュラーになれるかどうかの瀬戸際。練習を休めないから…と断られた。やっぱり彼女が大切なんだよねとデートに誘った自分を恥じた。

転校してから彼に謝りの手紙を送り、自分の気持ちにピリオッドをうつ事を告げた。

数日後、彼からの手紙が机に置かれていた。返事なんて来ないものと思っていた私の心臓はバクバク音をたてた。手紙を読む私のあの時の心臓の音は今でも覚えている。何も悪い事をしている訳でもないのに、なぜか部屋の隅っこで隠れる様に読んだ。

「彼女と別れた。本当は映画行きたかった。君が好きだ。付き合
ってほしい。」

遠距離恋愛なんて呼べる程の付き合いでもない。手紙のやり取り、
たまに電話。バスで三時間の距離の交通費を一所懸命貯め、半年に
一回友達に会いに行った時に公園で10分程度逢って話をする。

中学校三年生の恋に恋しての恋愛とお付き合い。。。かわいいもの
だった。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5404m/>

「1 + 1 = ?」

2010年10月15日23時25分発行